

たじみん昼話 59

好きな大学にラブレターを書こう

今年度から推薦入試が「学校推薦型選抜」と「総合型選抜」に変わった。この入試で合格の鍵を握るのが志望理由書だ。この志望理由書で大学が要求している項目は、①なぜ大学に入りたいのか？②きちんとした志を持っているか？③受験生がどんな人間なのか？④自分で考えて、自分で動ける人なのか？の4点だ。大学は、この4つの評価を通して、文部科学省が教育目標に掲げる「主体的に多様な仲間と協働して学ぶ能力」の完成度を見極めようとしているのだ。このことから志望理由書は、単なる願書ではなく実質的な1次試験という位置付けと考えると対策する必要があるのだ。

ちなみにこれは、推薦入試受験者だけの話ではない。一般入試にも志望理由書を義務づけることが、現在検討されているからだ。したがって、試験形式によらずこれからの大学入試の可否の鍵は、「志望理由書の成否」が握っていることを理解しておいて欲しい。

これを聞いて、尻込みする生徒がいるかもしれない。しかし、試験以外でじっくり自己アピールが出来て得点が稼げる唯一のチャンスに逃す手はない。容易ではないがしっかり取り組もう。

書き方は、「あなたという大学のこういうところが大好きだ」と、素直に伝えることを意識すれば良い。「志望する大学のどこが好きか？」「自分のどこを好きになって欲しいか？」を具体的にシンプルに伝えれば良い。即ち大学へのラブレターと考えて対策を練ろう。

ききょうがお薦めする書き方は、以下に示す4つのパーツを作り、過去と志望理由と未来を繋げることだ。特に②と③は、志望大学に好意を伝えるための重要なパーツと心得て、読む人の心に響く表現で構成する必要がある。

4つのパーツ

- ①過去の自分 → 「高校3年間を振り返る」 → きっかけパーツ
- ②現在の自分 → 「大学で学べる学問について知る」 → 学問分野への関心
- ③大学の自分 → 「入りたい大学を見る（オンラインでも）」 → 大学での学び
- ④将来の自分 → 「卒業したらどうするかを考える」 → 自己のキャリアを描く

パーツを繋ぐときの注意点

- 1.①が、自分が志望する分野の学問に出会った、きっかけ
- 2.①から②に、学びをどのように深め、志望学問分野へ関心を持つに至ったのか
- 3.②をどうやって③の「大学での学び」につなげるか（大学で何を学ぶか）
- 4.③を活用して④の将来どのような職業に就きたいか。どのようなキャリア計画か。

しかし実際に見る志望理由書は、きっかけの①に終始しているものが多い。61号へ続く